

こうみょう

第17号

この如来にょらいは光明こうみょうなり。光明こうみょうは智慧ちえなり。

智慧ちえはひかりのかたちなり。

親鸞しんらん聖人しょうにん著作しよさく『一念多念文意いちねんたねんもんい』

新型コロナウイルスの猛威により、不安な毎日をお過ごしのことと存じます。改めて、お見舞い申し上げます。

はじめて見つかったウイルスですから、前例がなく、さまざまな立場の専門家という方々が、いろいろなことをおっしゃっていますが、どれを信じてよいのやら、困ってしまいます。

それぞれの先生方が、今までの経験をもとに予測していることには、根拠を見つけることはできません。なにせ、人類が初めて向き合うことになったウイルスですから。

とにかく、一刻も早く、治療薬を開発して、ワクチンを作り、誰もが予防接種ができるようになることを願うばかりです。

僕が恐れていることは、実はウイルスだけではありません。ウイルスを恐れるあまり、僕たちに「選り、嫌い、見捨てる」ところが表面化してくることを恐れています。それは、感染の恐れがある場所や物、コミュニティまでも嫌い、大切に出会うべき「人間」を差別してしまうことです。

今こそ、仏の教えを聞くべき時だと思わずにはおられません。

第17号

2020年4月1日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

ホームページ：

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>



江東区仙台堀の桜。
子ども達がよく遊んだところです。

2023年
宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年
慶讃法要 厳修

真宗大谷派では、2023年に「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」を厳修いたします。

親鸞聖人は、伝承では、1173年の4月にお生まれになったと伝えられています。

また、立教開宗とは、親鸞聖人がその著書『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』の草稿本を完成されたのが、1224年であるという伝承に基づき、真宗十派で組織される「真宗教団連合」が4月15日を「立教開宗記念日」と定めたことによります。

本山（京都の東本願寺）は、慶讃法要の願いを、このように表現しています。

宗祖親鸞聖人は、法然上人との出会いによって本願に帰し、『顕浄土真実教行証文類』（以下、『教行信証』）を著して、本願念仏の教えが全人類を齊しく救う「真」の「宗」であることを開顕された。

私たちは、この『教行信証』を立教開宗の書として受け止め、あらためて宗祖が顕かにされた本願念仏の教えをいただきなすとともに、次の世代に教えを相続していかなければなりません。

そして、法要の意義を次のように表現しています。

慶讃法要は、宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗を慶び讃える御仏事である。

宗祖の御誕生、そして立教開宗を慶び讃えるということは、念仏の教えに出会い、自らかけられた願いに深くうなずき、そして、その御恩に報いていく歩みに他ならない。それは、人として誕生した私が、念仏の教え・はたらきに出会う時、人として生まれたことの尊さに目覚め、生まれて生きることと真に喜ぶことのできる者となる、まさに念仏の教えに出会った者の「報恩の営み」なのである。

このたびの慶讃法要は、一人ひとりが自らにとつての立教開宗の意味をたずね、本願念仏の教えをいただくかけがえのない大切な「時」と「場」を賜うことであり、自らの間法生活を問いなおし、あらためて念仏申す歩みを確かめていく機縁なのである。

法要期間は以下になります。

第1期法要	2023年3月25日～4月8日
第2期法要	2023年4月15日～4月29日
讃仰期間	2023年4月9日～4月14日

詳細は今後、通信にてご報告いたします。

仏事について……ごことが知りたい!

どこからが「お葬式」?

枕勤め・通夜・葬儀・還骨・初七日

一連の葬儀式には意味があります。

大切な方が亡くなられたとき、葬儀社にご縁がなければ、まずはお寺にご連絡ください。なじみの葬儀社さんがいらつしやればいいのですが、病院やその他の施設などで、「葬儀社を紹介します」と言われたら、手次のお寺(又は菩提寺)へ相談します、とお伝えしてお寺にご連絡ください。施設が勧める葬儀社の役割は、多くの場合、ご遺体を施設の外に運び出すことです。そのままご葬儀をお願いしても良い場合がありますが、まずはお寺へ。

ご遺体をご自宅へお戻りになったら、できる限り、僕が参ります。そして、ご一緒に「正信偈」をお勤めいたします。これを「枕勤め」(または「枕経」と言います。亡き方を前にして、ご一緒にお勤めいたしましたしように。その場で通夜・葬儀の日取りを決めたり、今後のことをご相談することもできます。

そして、通夜・葬儀となります。最近では、通夜を執り行わない「一日葬」という言い方

があるようですが、本来、そのような儀式はありません。通夜からが葬儀なのです。

インターネットなどで、葬儀の布施額を明示しているところがあり、そこに「通夜・葬儀ならいくら」「一日葬ならいくら」と示されているので、あたかも、通夜と葬儀と別々の儀式があり、それを葬家を選ぶかのような表現がされていますが、間違いです。

葬儀の前夜から、夜を通して、亡き方とのお別れをすることを「通夜」と呼んできたのです。省略できるものではありません。

また、葬儀の時間の中に「初七日」を組み込んで執り行うということに、まれに出会いますが、これも間違いです。

「初七日」は、葬儀を勤めた後に、火葬場から帰ってきて「還骨勤行」を行います。東京では、火葬場の状況により、七日近く経っているの、「還骨勤行」に合わせて、繰り上げて勤めています。その「初七日」を葬儀に組み込むことは、「還骨勤行」を省略することになりますので、望ましくありません。

一連の葬儀式には、亡き方との別れを、そして「死」という現実を、遺された者たちが仏の教えを聞くことを通して、次第に受け入れてゆくという意味があるのです。

大切な場です。省略することなく、丁寧に勤めたいものです。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 テーマ

『南無阿弥陀仏』

人と生まれたことの意味をたずねていこう!

テーマの願い(本山より)

私は、この地、この時に生を受けている。このことを精いっぱい尽して生きたい。悩み、苦しみは私に押し寄せてくる。でもそれは「生きること」をも奪うものではない。私の心の奥底にある「生きたい」という声に耳を澄まそう。その時、私に届けられている声に気づく。

それは私を呼ぶ声、南無阿弥陀仏。

仏の名 みな を呼ぶことは、仏の呼び声を聞くこと。その呼び声の響きの中で、人と生まれたことの意味を仏にたずねていこう。私に先立って生きた人たちと、同じ今を生きる人たちと、これから生まれてくる人たちと、そのこと一つをともにたずねていこう。

種から芽が出て花が咲き、花は枯れても種が残りまた花を咲かすように。

写教の会

教えの言葉を書き写す「写教」の会です。

開催日：4月15日・5月20日・6月17日

水曜日の14時～17時まで開けて
いますので、出入り自由です。

参加費：無料

「正信偈」を書写しますので、筆ペン又は書道道具をご持参ください。

光明寺同朋の会（法話の会）

親鸞聖人が書かれた「正信偈」には、どのような教えが記されているのでしょうか。少しずつですが、学んでまいります。

開催日：4月25日・5月23日・6月27日

土曜日の14時～16時半まで

参加費：500円

初回の方はテキスト代600円

※皆さまのご参加をお待ちしております。

体幹らくらくヨガ

お寺で、リラックスした気持ちでヨガを体験してみませんか。無理なく体を動かしながら、自然と体の内側を鍛えることが出来ます。日常から離れて、自分の体と向き合い、心地よい時間を過ごしましょう。

開催日：毎月第2火曜日の10時半～11時半

毎月第4火曜日の19時～20時

※月に2回開催しています。

参加費：1,000円

右記の三つのつどいにつきましては、新型コロナウイルスの影響によりまして、中止とさせていただきます。ご参加をご希望の際には、お寺にご確認ください。

また、前号にてご案内いたしておりました、

「花まつり」「永代経」については、法要と短い法話のみとなりますので、ご了承ください。

ご参加いただく際、マスクの着用は強制いたしません。各自の体調によりご判断ください。消毒液は、お寺で用意しております。

温かくなってきましたので、窓を開けて換気を心がけます。皆さま、それぞれにご判断いただき、ご参加を願っております。

第5回終活セミナー

「終活」とは、やがて終わりを迎える私の人生に向き合い、心配なことを整理し、今のちを安心して生きて往くための活動です。お寺で、一緒に考えましょう。

開催日：5月30日（土）14時～16時

会場：真宗大谷派光明寺本堂

テーマ①『集活』のススメ

～人と集い、語り、交流し、縁を紡ぐ～

集活ラボ所長 星野 哲さん

テーマ②「仏教の終活」

光明寺住職 小林 尚樹

星野哲(さとし)さんプロフィール

元朝日新聞記者（終活関連全般、ライフエンディングに関する分野の取材）、立教大学社会デザイン研究所研究員（人生のエンディングを社会でどう支えるかがテーマ）。著書に、『遺贈寄付 最期のお金の活かし方』『定年後』はお寺が居場所』『終活難民 あなたは誰に送ってもらえますか』ほか。